

岩手県立 宮古病院研修プログラム (2023年度)



岩手県立宮古病院臨床研修委員会





宮古病院のシンボルマークについて

病院から望む青い太平洋を2羽のカモメが水平線をめざして飛んでいます。カモメは宮古の頭文字「M」をシンボライズしており、大きいカモメは宮古病院を、小さいカモメは親鳥に全幅の信頼を置いている患者様を表しております。

輝く太平洋の遥か彼方の水平線は、私たちの目指す「3つの目標」であり、そこへ向かって爽やかに飛び続ける宮古病院を表現したものであります。

1. より信頼され親しまれる病院づくり
2. 医療の質と患者サービスの向上をめざして
3. 組織目標の達成と職員個人の人格向上をめざして

岩手県立宮古病院 研修プログラム =目次=

	ページ
【プログラムの特色】	1
【研修目標】	1
【プログラム責任者】	1
【研修開始時期】	1
【研修分野・研修期間】	1
【協力病院・協力施設】	2
【研修医の指導体制】	3～5
【募集定員等】	6
【処遇】	6
【研修理念】	7
I.到達目標	
A 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)	
1 社会的使命と公衆衛生への寄与	7
2 利他的な態度	7
3 人間性の尊重	7
4 自らを高める姿勢	7
B 資質・能力	
1 医学医療における倫理性	7
2 医学知識と問題対応能力	7
3 診療技能と患者ケア	8
4 コミュニケーション能力	8
5 チーム医療の実践	8
6 医療の質と安全の管理	8
7 社会における医療の実践	8
8 科学的探究	8
9 障害にわたって共に学ぶ姿勢	8
C 基本的診療業務	
1 一般外来診療	9
2 病棟診療	9
3 初期救急対応	9
4 地域医療	9
II 研修計画	
A 研修期間等	
1 基本研修	10
2 経験すべき症候 -29症候-	10
3 経験すべき疾病・病態 -26疾病・病態-	10
4 その他(経験すべき診察法・検査・手技等)	10～11
【到達目標の達成度評価】	
III 到達目標の達成度評価	
I 「A.医師としての基本的価値観」	12
II 「B.資質・能力」	12
III 「C.基本的診療業務」に関する評価	12
IV 臨床研修の目標の達成度判定票	13
<研修医評価票>	
☆ 研修医評価票 I	14
☆ 研修医評価票 II	15
☆ 1.医学・医療における倫理性	16
☆ 2.医学知識と門体対応能力	17
☆ 3.診療技能と患者ケア	18
☆ 4.コミュニケーション能力	19
☆ 5.チーム医療の実践	20

☆ 6.医療の質と安全管理	21
☆ 7.社会における医療の実践	22
☆ 8.科学的探究	23
☆ 9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢	24
☆ 研修医評価票 III	25
☆ 臨床研修の目標の達成度判定票	26

<研修記録>

☆ 初期研修記録	27	
☆ 受持症例記録	28	
☆ 発表記録	(1) 口演発表	29
	(2) 誌上発表	30
☆ 学会等参加記録	31	

<認定証等>

☆ 修了認定証	32
☆ 再履修通知書	33

【プログラムの特色】

当院は、宮古・下閉伊医療圏（宮古市、山田町、岩泉町、川井村、田野畑村、人口8万3千人）の中で唯一の総合病院であり、圏域の中核病院として1次から3次までの医療を担当している。救急医療に対応することも当院の重要な役割であり、全科オンコール制を敷いて年間1万3千人に及び救急患者の治療にあたっている。したがって、2年間でプライマリーケアから高度・専門医療まで初期研修に必要な数多くの病態・疾患を経験することが可能である。

【研修目標】

2年間の臨床研修をとおして、

- 1) 基本的な診療能力を身につけ頻度の高い日常的な疾患に対応できる
- 2) 患者の人格や個性を尊重し全人的な診療ができる
- 3) チーム医療の重要性を理解し実践することができる
- 4) 医療における安全管理、感染管理を意識し実践できる医師になることをめざす。（行動目標、経験目標は6ページ以降のとおり。）

【プログラム責任者】

副院長兼小児科長兼医療安全管理室長 三浦 邦彦

【研修開始時期】

2023年4月1日

【研修分野・研修期間】

研修ローテーション：

《1年目》

- ①内科（必修科目）を26週（オリエンテーションを含む）とし、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科を各8週を目途に経験する。
- ②救急（必修科目）を4週とし、外科に所属する。
- ③外科、小児科、産婦人科を必修科目として各4週とする。
- ④自由選択は10月以降とする。麻酔科を選択する場合は4週を限度に救急に換算できるものとする。
- ⑤基本ローテートは、年度当初の26週を内科、10月以降の4週を外科、その後の4週を救急（外科所属）12月以降を小児科・産婦人科の各科4週のローテートとし、研修医数によって調整する。
- ⑥宿直については、22時までとする。

《2年目》

- ①地域医療研修、精神科は2年次以降とし、一般外来研修を含めるものとする。（在宅医療を含む）
- ②一般外来研修の実績が20日間に満たない場合は、選択研修時に外科、小児科外来を経験する。
- ③救急（必修科目）12週のうち、8週については、2年次研修中の日当直回数20回を4週としてカウントする。但し、麻酔科を選択した場合は4週を上限として救急にカウントする。

《その他》

- ①到達目標達成度において必要な項目については、研修中の科目に関わらず経験し、指導を受けること。
→麻酔科を選択しない場合は、外科研修中に麻酔科医のもとで経験し指導を受けること。
- ②希望に応じて、臨床研修協力病院への「たすきがけ研修」を行う。
- ③研修協力施設での研修は最大3ヶ月とする。
- ④5月のゴールデンウィーク、年末年始については、5週を1クールとする。

1年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	内 科（24週）+オリエンテーション2週						外科 4週	救急4 週 (外科 所属)	小児 科 4週	産婦 人科 4週	選択 5週	選択 5週

2年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	地域 4週	精神 科 4週	自由選択 40週 は4週を1単位として選択診療科での研修を行う									
	救急（宿日直40回以上または、麻酔科4週 + 宿日直20回）											

【協力病院・協力施設】

協力病院：

病 院 名	研修分野	研修実施責任者	
財団正清会 三陸病院 Tel0193-62-7021 〒027-0048 宮古市板屋一丁目6番36号	精神	院長	三浦 正之
岩手医科大学附属病院 Tel019-653-7111 〒028-3695 紫波郡矢巾町医大通2丁目1番1号	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔 精神	医師卒後臨床研修 センター長	伊藤 薫樹
岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 〒020-8505 盛岡市内丸19-1 Tel019-613-6111	自由選択	内丸メディカルセ ンター長、教授	下沖 収
盛岡赤十字病院 Tel019-637-3111 〒020-8560 盛岡市三本柳6-1-1	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔	院長兼リハビリ テーション科部長 事務取扱	久保 直彦
北上済生会病院 Tel0197-64-7722 〒024-8506 北上市花園町一丁目6-8	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔	副院長兼循環 器内科科長	佐藤 嘉洋
岩手県立中央病院 Tel019-653-1151 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔	医療研修部長	池端 敦
岩手県立大船渡病院 Tel0192-26-1111 〒022-8512 大船渡市大船渡町字山馬越10番地1	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔 精神	副院長兼副救命救急 センター長兼第1外科 長兼感染管理室長	星田 徹
岩手県立釜石病院 Tel0193-25-2011 〒026-0055 釜石市甲子町第10地割483-6	内科 救急 外科 小児科 麻酔	院長	坂下 伸夫
岩手県立胆沢病院 Tel0197-24-4121 〒023-0864 奥州市水沢区龍ヶ馬場61番地	内科 救急 外科 小児科 麻酔	医療研修科長兼泌 尿器科医長兼総合 診療科医長	米田 真也
岩手県立磐井病院 Tel0191-23-3452 〒029-0192 一関市狐禅寺字大平17番地	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔	第1外科長兼 医療研修科長	桂 一憲
岩手県立久慈病院 Tel0194-53-6131 〒028-8040 久慈市旭町第10地割1番	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔	副院長兼第1整形 外科長兼医療研修 科長	近江 礼
岩手県立中部病院 Tel0197-71-1511 〒024-8507 北上市村崎野17地割10番地	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔	副院長兼第1脳神 経内科長兼診療部 長兼医療研修室長	田村 乾一
岩手県立二戸病院 Tel0195-23-2191 〒028-6193 二戸市堀野字大川原毛38-2	内科 救急 外科 小児科 産婦人科 麻酔	院長	小笠原 敏浩
盛岡市立病院 Tel019-635-0101 〒020-0866 盛岡市本宮五丁目15番1号	内科 救急 外科 麻酔	副院長兼診療部 長兼脳神経内科 長	佐々木 一裕

研修協力施設

施 設 名	研修分野	研修実施責任者	
岩手県立山田病院 Tel0193-82-2111 〒028-1341 山田町大沢第13地割197番地	地域医療	院長	宮本 伸也
国民健康保険 田老診療所 Tel0193-87-5281 〒027-0305 宮古市田老字向新田148番地	地域医療	所長	橋本 祥弘
宮古老人保健施設桜ヶ丘 Tel0193-62-3380 〒027-0063 宮古市山口五丁目5番10号	地域医療	施設長	及川 暁
岩泉済生会病院 Tel0194-22-2151 〒027-0501 岩泉町岩泉字中家19番地1	地域医療	院長	柴野 良博
岩手県宮古保健所 Tel0193-64-2218 〒027-0072 宮古市五月町1-20	保健・医療行政	所長	杉江 琢美
岩手県赤十字血液センター Tel019-637-7201 〒020-0831 盛岡市三本柳6-1-6	保健・医療行政	所長	増田 友之
宮古市役所 Tel0193-64-0111 〒027-8501 宮古市宮町1丁目1番30号	保健・医療行政	健康課長	早野 貴子

【研修医の指導体制-1】

研修管理委員会（委員長1名、副委員長1名、委員29名）のもと、指導医17名が臨床研
 の任にあたる。

区 分	研修分野	指導医の数	備 考
必修科目	内科	6	内科系、外科系の各診療科長が 指導責任者として指導にあたる
	外科(1ヶ月救急含む)	9	
	地域医療		協力施設の中から選択
	小児科	1	
	産婦人科	1	
	精神科		三陸病院（協力病院）にて実施
その他	麻酔科		

※希望に応じて、必修・選択必修科目研修を協力病院で行うことができる。

【研修医の指導体制】

担当分野	氏名	所属	役職	2023	指導医講習会等の受講経験有：○ 無：×	資格等	研修管理委員
外科	川村 英伸	岩手県立宮古病院	院長兼地域医療福祉連携室長	33年	○	ICD、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)、両地域緩和ケア医療従事者研修会修了、日本消化器外科学会指導医、臨床研修指導医養成講習会修了、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了、消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医、日本外科学会指導医、日本外科学会外科専門医、学位記(医学博士)	研修実施責任者 研修管理委員
小児科	三浦 邦彦	岩手県立宮古病院	副院長兼小児科長兼医療安全管理室長	33年	○	日本小児科学会専門医、プログラム責任者養成講習会修了、第19回全国自治体病院協議会指導医講習会修了、医療安全管理者養成講座プログラム全課程修了、宮古地域緩和ケア医師研修会修了	研修管理委員
整形外科	白倉 義博	岩手県立宮古病院	副院長兼整形外科長兼救急医療科長	33年	○	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会第9回研修指導者講習会受講、岩手医科大学医師臨床研修指導医講習会修了、宮古地域緩和ケア医師研修会修了	研修管理委員
外科	阿部 薫	岩手県立宮古病院	副院長兼診療情報管理室長兼医師事務支援室長(医局長)	31年	○	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本がん治療認定医、岩手県医師臨床研修指導医FD修了、岩手医科大学医師臨床研修指導医講習会修了、H18秋田県厚生農業協同組合連合会臨床研修指導医ワークショップ修了、日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了、日本医師会認定産業医、秋田県単体型緩和ケア研修会修了	研修管理委員
外科	藤社 勉	岩手県立宮古病院	副院長兼感染管理室長兼第1外科長兼緩和医療科長	28年	○	日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本消化器病学会指導医・専門医、麻酔科標榜医、日本がん治療認定医、日本乳癌学会認定医、日本緩和医療学会緩和医療認定医、日本緩和医療学会第2回研修指導者講習会修了、プログラム責任者養成講習会修了、全国自治体病院協議会新指導医講習会修了、ICD、日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了	研修管理委員
消化器内科	菅原 有子	岩手県立宮古病院	臨床検査科長	31年	○	岩手県医師臨床研修指導医講習会修了、宮古地域緩和ケア医療従事者研修会修了	
消化器内科	吉田 健	岩手県立宮古病院	消化器内科長兼医療研修科長兼災害医療科長	16年	○	日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、ICD、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了、H26プログラム責任者養成講習会修了、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、宮古地域緩和ケア医師研修会修了	研修管理委員
消化器内科	岡田 洋平	岩手県立宮古病院	消化器内科医長	8年	×		
消化器内科	沢口 勢良	岩手県立宮古病院	地域医療科長	9年	×		
糖尿病・代謝内科	大久保 仁	岩手県立宮古病院	糖尿病・代謝内科長	13年	○	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医、日本医師会認定産業医、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了、嚥下機能評価研修会修了	
呼吸器内科	伊藤 貴司	岩手県立宮古病院	呼吸器内科長	10年	○	日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本内科学会総合内科専門医、医師臨床研修指導医ワークショップ修了、岩手県立中央病院緩和ケア医師研修会修了、日本内科学会認定内科医、学位記(医学博士)	
循環器内科	前川 裕子	岩手県立宮古病院	循環器内科長兼診療支援室長	16年	○	日本内科学会認定内科医、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了	研修管理委員
循環器内科	山屋 麻衣子	岩手県立宮古病院	循環器内科医長	9年	×	日本内科学会認定内科医	
外科	瀬川 武紀	岩手県立宮古病院	第2外科長	9年	×	日本外科学会外科専門医、がんのリハビリテーション過程修了、久慈地域緩和ケア医療従事者研修会、嚥下機能評価研修会修了、学位記	
整形外科	安見 雄司	岩手県立宮古病院	リハビリテーション科長	13年	○	岩手県医師臨床研修指導医講習会修了、日本整形外科学会専門医、小児運動器疾患指導管理医師セミナー受講	
脳神経外科	麻生 謙太	岩手県立宮古病院	脳神経外科長	16年	○	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了	
形成外科	鈴木 偉彦	岩手県立宮古病院	参与兼形成外科長	38年	○	日本形成外科学会専門医・認定医、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了	
泌尿器科	尾張 幸久	岩手県立宮古病院	泌尿器科長	25年	○	日本泌尿器科学会指導医・専門医、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了、宮古地域緩和ケア医師研修会修了	
産婦人科	小原 剛	岩手県立宮古病院	産婦人科長	21年	○	日本産婦人科学会専門医、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了、日本母体保護法指定医、気仙地域緩和ケア医師研修会修了	
放射線科	佐藤 隆一	岩手県立宮古病院	参与兼放射線科長	40年	○	日本医学放射線学会診断専門医、岩手県医師臨床研修指導医講習会修了、放射線取扱主任者定期講習修了、宮古地域緩和ケア医療従事者研修会修了	
—	板倉 宏樹	岩手県立宮古病院	事務局長	—	—		研修管理委員
—	内野 邦江	岩手県立宮古病院	総看護師長	—	—		研修管理委員

【研修医の指導体制】

担当分野	氏名	所属	役職	2023	指導医講習会等の受講経験有：○ 無：×	資格等	研修管理委員
—	乱場 定吉	岩手県立宮古病院	事務局次長	—	—		研修管理委員
—	川目 夏子	岩手県立宮古病院	臨時事務補助員	—	—		研修管理委員
研修医	久保 憲尚	岩手県立宮古病院	二年次臨床研修医	3年	×		研修管理委員
外部委員	佐藤 雅夫	佐藤雅夫クリニック	院長 宮古医師会長	48年	×		研修管理委員
地域医療内科	宮本 伸也	岩手県立山田病院	院長兼宮古病院副院長	41年	○	全国自治体病院協議会臨床研修指導医講習会修了	研修管理委員
保健・医療行政	杉江 琢美	岩手県宮古保健所	所長	38年	×	日本呼吸器学会呼吸器科専門医、日本結核抗酸菌症学会 結核・抗酸菌指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支指導医、社会医学系専門医協会指導医	研修管理委員
保健・医療行政	橋本 祥弘	田老診療所	所長	27年	×		研修管理委員
保健・医療行政	増田 友之	岩手県赤十字血液センター	所長	4年	×	病理指導医・専門医	研修管理委員
保健・医療行政	柴野 良博	済生会岩泉病院	院長	45年	○	指導医のための教育ワークショップ修了	研修管理委員
保健・医療行政	早野 貴子	宮古市役所	健康課長	—	—		研修管理委員
保健・医療行政	及川 暁	宮古老人保健施設桜ヶ丘	施設長	—	—		研修管理委員
精神科	三浦 正之	三陸病院	院長	—	—		研修管理委員
総合診療科	下沖 収	岩手医科大学附属内丸メデイカルセン	教授	34年	○	岩手県医師臨床研修指導医講習会受講済	研修管理委員
内科	伊藤 薫樹	岩手医科大学附属病院	医師卒後臨床研修センター長	31年	○	岩手医科大学主催医師臨床研修指導医講習会受講済	研修管理委員
内科	池端 敦	岩手県立中央病院	医療研修部長	34年	○	東北大学医学部臨床教授、東北医科薬科大学医学部臨床教授、日本消化器病学会(消化器病専門医・指導医)、日本消化器内視鏡学会(消化器内視鏡専門医・指導医)、日本消化器がん検診学会(認定医:胃・大腸)、日本内科学会(認定内科医)、日本消化器病学会(東北支部評議員)、日本消化器内視鏡学会(東北支部評議員)、第1回岩手県医師臨床研修指導医講習会	研修管理委員
救急脳神経外科リハビリテーション	久保 直彦	盛岡赤十字病院	院長 兼 リハビリテーション科部長事務取扱	42年	○	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本救急医学会専門医、日本脳卒中学会専門医、第9回日本赤十字社臨床研修指導医養成講習会受講済	研修管理委員
循環器内科	佐藤 嘉洋	北上済生会病院	副院長兼循環器内科科長	25年	○	岩手医科大学医師臨床研修指導医講習会受講済、プログラム責任者養成講習会受講済、日本内科学会認定内科医、日本循環器学会循環器専門医、日本不整脈学会・日本心電学会不整脈専門医	研修管理委員
泌尿器科	米田 真也	岩手県立胆沢病院	医療研修科長兼泌尿器科医長兼総合診療科医長	18年	○	第12回岩手県医師臨床研修指導医講習会受講済、平成25年度プログラム責任者養成講習会受講済	研修管理委員
外科	桂 一憲	岩手県立磐井病院	第1外科長兼医療研修科長	25年	○	第19回特定非常合法人良陵協議会臨床研修指導医講習会、令和2年度プログラム責任者養成講習会	研修管理委員
外科	星田 徹	岩手県立大船渡病院	副院長兼副救命救急センター長兼第1外科長兼感染管理室長	32年	○	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、第11回岩手県医師臨床研修指導医講習会受講済	研修管理委員
外科	坂下 伸夫	岩手県立釜石病院	院長	37年	○	一般社団法人日本外科学会外科専門医 等	研修管理委員
整形外科	近江 礼	岩手県立久慈病院	副院長兼第1整形外科長兼医療研修科長	22年	○	日本整形外科学会整形外科専門医、医師臨床研修指導医講習会修了	研修管理委員
産婦人科	小笠原 敏浩	岩手県立二戸病院	院長	37年	○	日本医師会認定産業医、日本産婦人科内視鏡学会腹腔鏡の技術認定医、日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース(Aコース)インストラクター、日医かかりつけ医機能研修制度、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、日本産科婦人科学会産婦人科専門医、第6回臨床研修指導医養成講習会修了	研修管理委員
脳神経内科	田村 乾一	岩手県立中部病院	副院長兼第1脳神経内科長兼診療部長兼医療研修室長	40年	○	第1回岩手県医師臨床研修指導医講習会	研修管理委員
脳神経内科	佐々木 一裕	盛岡市立病院	副院長兼診療部長兼脳神経内科長	38年	○	全国自治体病院協議会医師臨床研修指導医養成講習会受講済	研修管理委員

【募集定員等】

募集定員	1 学年5名
募集及び採用	マッチングへ参加 選考方法は面接による
選考時期	8月
必要書類	履歴書、卒業見込証明書、成績証明書

【処 遇】

- (1) 常勤又は非常勤の別 常勤の臨時医務嘱託員
臨床研修医としての身分を有する期間は2年
- (2) 研修手当、勤務時間
及び休暇 報酬： 1 年次 月額360,000円
2 年次 月額410,000円
勤務時間：基本的な勤務時間は8時30分から17時15分まで
1 週間38.75時間の範囲内で病院長が定める。
休憩時間：12時15分から13時15分まで（1時間）
休暇： ①年次休暇 1 年次 10日
2 年次 11日
②特別休暇 有り（夏季休暇5日間ほか）
③病気休暇（10日間）
④年末年始の休日（6日間）
- (3) 時間外勤務及び当直 時間外勤務有り、超過勤務手当を支給
当直は、月4回程度有り
（宿日直手当は、1 年次10,500円、2 年次21,000円）
- (4) 宿舍、病院内の個室 宿舍有り
病院内に個室はないが、研修医室を設置している
- (5) 社会保険等 公的医療保険： 全国健康保険協会（2年目から共済保険）
公的年金： 厚生年金（2年目から共済年金）
労働災害： 労働災害補償保険法（1 年次）
雇用保険： 有り（研修開始から6ヶ月間のみ）
- (6) 健康管理 年2回の健康診断
- (7) 医師賠償責任保険 一括加入
- (8) 外部の研修活動 学会・研究会参加の旅費について支給有り（限度額の範囲内）
- (9) アルバイト禁止 研修期間中のアルバイトは禁止です。

【研修理念】

臨床研修は、医師が医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野に関わらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけるものとする。

【I 到達目標】

医師として病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を身に付ける。

A：医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める

B：資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤診察、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ①頻度の高い症候について、適切な診療推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。

③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ②患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係形成を築く。

- ①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ②チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全にも配慮する。

- ①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ①保険医療に関する法律・制度の目的と仕組みを理解する。
- ②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ①医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ②科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

- ②同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む）を把握する。

C：基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、医科の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、漢書の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

【Ⅱ 研修計画】

研修目的を達成するために、2年間を一定期間ごとに分割し、ローテーションにより「医師としての基本的価値観」、「資質・能力」、「基本的診療業務」を習得する。

A.: 研修期間等

1. 基本研修

内科（24週以上）、外科（4週以上）、小児科（4週以上）、産婦人科（4週以上）、精神科（4週以上）、救急（12週以上）、地域医療（4週以上）を必須の実習診療科とし、残りの期間を自由選択診療科とする。

①内科24週以上については、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、糖尿病代謝内科のうちから3診療科を基本とし、4週を1クールとして6クールをローテートする。

②救急12週以上については、4週の救急診療と40回以上の宿日直を8週と換算する。ただし、選択診療科で麻酔科を選択した場合における研修期間4週については、救急に含めるものとし、20回以上の宿日直を4週と換算する。

③一般外来診療（4週以上）については、地域医療研修中に実施することとしているが、経験日数が20日に満たない場合は、当院の小児科及び外科にて経験する。

④ゴールデンウィーク、年末年始については、5週を1クールとする。

⑤地域医療研修（在宅医療研修を含む）、精神科研修については、2年次研修医を対象とする。

⑥自由選択診療科については、当院又は協力病院・施設等で希望する診療科について研修を行うものであり、4週を1クールとして実施する。

2. 経験すべき症候 -29症候-

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少、るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

3. 経験すべき疾病・病態 -26疾病・病態-

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺がん、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃がん、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、資質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

4. その他（経験すべき診察法・検査・手技等）

①医療面接：診断のための情報収集だけでなく人間関係の樹立等コミュニケーションの意義を理解し、望ましいコミュニケーションのあり方を追求する心構えと習慣を身に付ける。

②身体診察：病歴情報に基づいた、適切な診療手技（視診、触診、打診、聴診等）を用いて、全身と局所の診察を速やかに行うことができ、倫理面にも配慮ができる。

③臨床推論：病歴情報と身体所見に基づいた、適切な検査、治療について多くの要因を総合して決

めなければならないことを理解し、実施に当たってのインフォームドコンセントの手順を身に付ける。

- ④臨床手技：気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、圧迫止血法、包帯法、採血法、注射法、腰椎穿刺、穿刺法、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置、期間挿管、除細動等の臨床手技を身に付ける。
- ⑤検査手技：血液型判定・交差適合試験、動脈血ガス分析、心電図の記録、超音波検査等を経験する。
- ⑥地域包括ケア・社会的視点：症候や疾病・病態の中には、社会的な視点から理解し対応する必要があり、患者個人への対応とともに、社会的な枠組みでの治療や予防の重要性を理解する。
- ⑦診療録：日々の診療録（退院時要約を含む）は速やかに記載し、指導医あるいは上級医の指導を受ける。

【到達目標の達成度評価】

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、研修分野・診療科のローテーション終了時に厚生労働省から示された「研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を用いて、医師及び医師以外の医療職が評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。

研修管理委員会は、上記の評価票を用いて年2回、プログラム責任者又は研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。

2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

【Ⅲ到達目標の達成度評価】

研修医の評価票の記載については、「A.医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価「B.資質・能力」に関する評価、「C.基本的診療業務」に関する評価に分けて下記のとおり4段階評価とする。

評価	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
判定内容	期待を大きく下回る	期待を下回る	期待通り	期待を大きく上回る

研修医評価票

I. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価

- A-1.社会的使命と公衆衛生への寄与
- A-2.利他的な態度
- A-3.人間性の尊重
- A-4.自らを高める姿勢

II. 「B. 資質・能力」

- B-1. 医学・医療における倫理性
- B-2.医学知識と問題対応能力
- B-3.診療機能と患者ケア
- B-4.コミュニケーション能力
- B-5.チーム医療の実践
- B-6.医療の質と安全の管理
- B-7.社会における医療の実践
- B-8.科学的探究
- B-9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢

Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価

C-1.一般外来診療

C-2.病棟診療

C-3.初期救急対応

C-4.地域医療

Ⅳ.臨床研修の目標の達成度判定票

研修医評価票 I

「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 医師 医師以外(職種名 _____)

観察期間 _____年____月____日 ~ _____年____月____日

記載日 _____年____月____日

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	観察機会なし
	期待を大きく下回る	期待を下回る	期待通り	期待を大きく上回る	
A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	<input type="checkbox"/>				
A-2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	<input type="checkbox"/>				
A-3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	<input type="checkbox"/>				
A-4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	<input type="checkbox"/>				

※「期待」とは、「研修終了時に期待される状態」とする。

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。特に「期待を大きく下回る」とした場合は必ず記入をお願いします。

研修医評価票 Ⅱ
「B. 資質・能力」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 医師 医師以外(職種名 _____)

観察期間 _____年____月____日 ~ _____年____月____日

記載日 _____年____月____日

レベルの説明

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
臨床研修の開始時点で期待されるレベル (モデル・コア・カリキュラム相当)	臨床研修の中間時点で期待されるレベル	臨床研修の終了時点で期待されるレベル (到達目標相当)	上級医として期待されるレベル

1. 医学・医療における倫理性：

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<p>■ 医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。</p> <p>■ 患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。</p> <p>■ 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取り扱いができる。</p>	人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を示す。	人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。	患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。	モデルとなる行動を他者に示す。
	倫理的ジレンマの存在を認識する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、対応する。
	利益相反の存在を認識する。	利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	診療、研究、教育に必要な透明性確保と不正行為の防止を認識する。	診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	モデルとなる行動を他者に示す。

観察する機会が無かった

コメント：

2. 医学知識と問題対応能力:

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<p>■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。</p> <p>■講義、教科書、検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。</p>	頻度の高い症候について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。	頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。	主な症候について、十分な鑑別診断と初期対応をする。
	基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。	患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。	患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断をする。
	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。

観察する機会が無かった

コメント:

3. 診療技能と患者ケア:

医療技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要最低限の病歴を聴取し、網羅的に系統立てて、身体診察を行うことができる。 ■ 基本的な臨床技能を理解し、適切な態度で診断治療を行うことができる。 ■ 問題志向型医療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。 ■ 緊急を要する病態、慢性疾患に関して説明ができる。 	<p>必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に収集する。</p> <p>基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。</p> <p>最低限必要な情報を含んだ診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を適切に作成する。</p>	<p>患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。</p> <p>患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。</p> <p>診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。</p>	<p>複雑な症例において、患者の健康に関する情報を心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。</p> <p>複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。</p> <p>必要かつ十分な診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成でき、記載の模範を示せる。</p>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント:

4. コミュニケーション能力:

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<p>■コミュニケーションの方法と技能、及ぼす影響を概説できる。</p> <p>■良好な人間関係を築くことができ、患者・家族に共感できる。</p> <p>■患者・家族の苦痛に配慮し、分かりやすい言葉で心理的社会的課題を把握し、整理できる。</p> <p>■患者の要望への対処の仕方を説明できる。</p>	最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。	適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。	適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。
	患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。指導医とともに患者の主体的な意思決定を支援する。	患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。	患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する。
	患者や家族の主要なニーズを把握する。	患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。	患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント:

5. チーム医療の実践:

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<p>■ チーム医療の意義を説明でき、(学生として)チームの一員として診療に参加できる。</p> <p>■ 自分の限界を認識し、他の医療従事者の援助を求めることができる。</p> <p>■ チーム医療における医師の役割を説明できる。</p>	<p>単純な事例において、医療を提供する組織やチームの目的等を理解する。</p>	<p>医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。</p>	<p>複雑な事例において、医療を提供する組織やチームの目的とチームの目的等を理解した上で実践する。</p>
	<p>単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。</p>	<p>チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。</p>	<p>チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。</p>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント:

6. 医療の質と安全管理:

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<p>■ 医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。</p> <p>■ 医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる。</p> <p>■ 医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる。</p>	医療の質と患者安全の重要性を理解する。	医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。	医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。
	日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。	日常業務の一環として、報告・連絡、相談を実践する。	報告・連絡・相談を実践するとともに報告・連絡・相談に対応する。
	一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。	医療事故等の予防と事後の対応を行う。	非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。
	医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。	医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。	自らの健康管理、他の医療従事者の健康管理に努める。

観察する機会が無かった

コメント:

7. 社会における医療の実践:

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<p>■ 離島・へき地を含む地域社会における医療の状況、医師偏在の現状を概説できる。</p> <p>■ 医療計画及び地域医療構想、地域包括ケア、保健・医療行政などを説明できる。</p> <p>■ 災害医療を説明できる。</p> <p>■ (学生として) 地域医療に積極的に参加・貢献する。</p>	保健医療に関する法規・制度を理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。
	健康保険、公費負担医療の制度を理解する。	医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。	健康保険、公費負担医療の適用の可否を判断し、適切に活用する。
	地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。
	予防医療・保健・健康増進の必要性を理解する。	予防医療・保健・健康増進に努める。	予防医療・保健・健康増進について具体的な改善案などを提示する。
	地域包括ケアシステムを理解する	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する
	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。	災害や感染症パンデミックなどを想定し、組織的な対応を主導する実際に対応する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった			
コメント:			

8. 科学的探究：

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
<p>■研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを説明できる。</p> <p>■生命科学の講義、実習、患者や疾患の分析から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。</p>	医療上の疑問点を認識する。	医療上の疑問点を研究課題に変換する。	医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究計画を立案する。
	科学的研究方法を理解する。	科学的研究方法を理解し、活用する。	科学的研究方法を目的に合わせて活用実践する。
	臨床研究や治験の意義を理解する。	臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。	臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。

<input type="checkbox"/>						
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

観察する機会が無かった

コメント：

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢:

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
モデル・コア・カリキュラム		研修終了時に期待されるレベル	
■生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収の必要性を認識する。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。
	同僚、後輩、医師以外の医療職から学ぶ姿勢を維持する。	同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。	同僚、後輩、医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。
	国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。)の重要性を認識する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。)を把握する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。)を把握し、実臨床に活用する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント:

研修医評価票 Ⅲ
「C. 基本的診療業務」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 医師 医師以外(職種名

観察期間 _____年_____月_____日 ~ _____年_____月_____日

記載日 _____年_____月_____日

レベル	レベル1 指導医の 直接の監 督の下で できる	レベル2 指導医が すぐに対 応できる 状況下で できる	レベル3 ほぼ単独 でできる	レベル4 後進を指 導できる	観察機会 なし
C-1. 一般外来診療 頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-2. 病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-3. 初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-4. 地域医療 地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。

臨床研修の目標の達成度判定票

研修医名 _____

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

到達目標	達成状況: 既達/未達		備 考
1.社会的使命と公衆衛生への寄与	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
2.利他的な態度	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
3.人間性の尊重	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
4.自らを高める姿勢	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	

B. 資質・能力

到達目標	既達/未達		備 考
1.医学・医療における倫理性	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
2.医学知識と問題対応能力	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
3.診療技能と患者ケア	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
4.コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
5.チーム医療の実践	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
6.医療の質と安全管理	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
7.社会における医療の実践	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
8.科学的探究	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	

C. 基本的診療業務

到達目標	既達/未達		備 考
1.一般外来診療	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
2.病棟診療	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
3.初期救急対応	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	
4.地域医療	<input type="checkbox"/> 既	<input type="checkbox"/> 未	

臨床研修の目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 既達	<input type="checkbox"/> 未達
---------------------	-----------------------------	-----------------------------

(臨床研修の目標の達成に必要な条件等)

年 月 日

○○プログラム・プログラム責任者 _____

初期研修記録

評価方法(4段階評価)
 4.とりわけ優れている
 3.平均を上回っている
 2.平均レベルに到達している
 1.不十分なレベルに留まっている

氏名 _____

研修先	研修期間		自己評価			指導医評価		病棟師長						
			達成度	努力度	充実度	研修態度	達成度	指導医名	研修態度	達成度	師長名			
1	年	月	日	～	年	月	日							
2	年	月	日	～	年	月	日							
3	年	月	日	～	年	月	日							
4	年	月	日	～	年	月	日							
5	年	月	日	～	年	月	日							
6	年	月	日	～	年	月	日							
7	年	月	日	～	年	月	日							
8	年	月	日	～	年	月	日							
9	年	月	日	～	年	月	日							
10	年	月	日	～	年	月	日							
11	年	月	日	～	年	月	日							
12	年	月	日	～	年	月	日							
13	年	月	日	～	年	月	日							
14	年	月	日	～	年	月	日							
15	年	月	日	～	年	月	日							

受持症例記録

入院受け持ち患者一覧表

氏名

No.

番号	患者名	生年月日	患者登録番号	年齢	性別	受持期間		主診断名	転帰	備考
1		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
2		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
3		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
4		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
5		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
6		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
7		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
8		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
9		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
10		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
11		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
12		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
13		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
14		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
15		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
16		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
17		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
18		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
19		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			
20		M・T S.H . . .	- -		男・女	年 月 日	～ 年 月 日			

発表記録

1.口演発表

氏名

No.

番号	日時	演題名	学会・研究会等の名称	発表者(主発表者に○)	備考
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

発表記録

2.誌上発表

氏名

No.

番号	題名	誌名、巻(号):ページ、年	発表者(主発表者に○)	備考
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

学会等参加記録

氏名

No.

番号	学会および研究会等の名称	開催日程		開催場所	備考	
1		年 月 日	～	年 月 日		
2		年 月 日	～	年 月 日		
3		年 月 日	～	年 月 日		
4		年 月 日	～	年 月 日		
5		年 月 日	～	年 月 日		
6		年 月 日	～	年 月 日		
7		年 月 日	～	年 月 日		
8		年 月 日	～	年 月 日		
9		年 月 日	～	年 月 日		
10		年 月 日	～	年 月 日		

臨床研修修了証

ふりがな 研修医の氏名							
生年月日	昭和 年 月 日 平成						
医籍登録番号 及び登録年月日	第 号 令和 年 月 日						
終了した臨床研修に係る研修プログラムの番号及び名称	プログラム番号						研修プログラムの名称
	0	3	0	7	8	4	岩手県立宮古病院研修プログラム
研修開始年月日 及び研修修了年月日	令和 年 月 日開始 令和 年 月 日修了						
臨床研修を行った臨床研修病院の病院施設番号及び名称	病院施設番号						単独型又は管理型臨床研修病院の名称
	0	3	0	7	8	4	岩手県立宮古病院研修プログラム
	協力型臨床研修病院の名称						
臨床研修協力施設で研修を行った場合にはその名称							

上の者は、研修プログラムの課程を修了したことを認定する。

令和 年 月 日

岩手県立宮古病院 院 長 川村 英伸

岩手県立宮古病院研修管理委員会 委員長 川村 英伸

臨床研修中断証

ふりがな 研修医の氏名		生年月日	昭和 平成 年 月 日
医籍登録番号	第 号	登録年月日	年 月 日
中断した臨床研修に係る 研修プログラムの名称			
臨床研修を行った 病院又は施設 の名称	臨床研修病院	所在する都道府県	
	臨床研修協力施設		
研修開始年月日	年 月 日	研修中断年月日 (休止期間)	年 月 日 (日)
※臨床研修を中断した理由:			
※臨床研修を中断した時までの臨床研修の内容:			
※中断した時までの研修内容における当該研修医の評価:			

※については、適宜、研修内容やその評価が分かるような資料(臨床研修指導医(指導医)による研修医の評価表など)を添付すること。

上の者は、研修プログラムのうち中断時までの内容について履修したことを証明する。

令和 年 月 日

宮古病院 院長 川村 英伸

宮古病院 臨床研修委員会 委員長 吉田 健

臨床研修未修了理由書

ふりがな 研修医の氏名		性別 男 女	生年月日	昭和 平成 年 月 日
医籍登録番号	第 号		登録年月日	年 月 日
未修了の臨床研修に係る 研修プログラムの名称				
臨床研修を行った施設の名称	臨床研修病院			
	臨床研修協力施設			
研修期間	年 月 日 ~ 年 月 日			
※臨床研修を修了していないと認める理由:				

※については、適宜、研修内容やその評価が分かる資料(指導医による研修医の評価表など)など、研修を修了していないとする理由が分かる資料を添付すること。

上の者は、上記の理由により、研修プログラムを修了していないものと認められるので通知する。

令和 年 月 日

宮古病院 院長 川村 英伸

宮古病院 臨床研修委員会 委員長 吉田 健